

## 令和3年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況

【令和3年度美術館協議会(令和3年12月21日開催)】

## 1 説明事項「令和2年度美術館協議会における主な意見・要望とその対応状況(会議資料2)」について

主な意見要望等	対応状況
<p>① 東北造形教育研究大会の鑑賞授業にアートカードを使用した出前授業を行っているが、美術館の職員がアートカードを使ったいろいろな鑑賞授業を行うことは、非常に効果的だと思う。</p> <p>それと関連して、鑑賞補助教材としてアートカードや所蔵作品パネルの貸出しを行っているという事は、おそらく貸出し先の学校の教員が使われるということだと思うが、その教員向けに指導方法とか、何か美術館の方から伝える機会があるのかどうか。</p>	<p>(前回回答) 小学校の指導要領、補助教材にも使い方は載っている。あとはホームページのほうに、国立の美術館とか、様々な美術館で出されている使い方とかというものもあるので、そちらのほうを参考にするようにお勧めすることもある。貸出しの際に、こういう使い方もあるというのは、その先生にはお伝えしている。</p> <p>(追加回答) 鑑賞補助教材(パネル)に関しては、貸出先の先生が意図をもって借りに来られている。館では効果的に活用するための参考として使用方法を聞いている。</p>
<p>② 例えば指導される先生方に、美術館のコレクションの良さだとか、それぞれの作品の良さだとか、それぞれの作品の情報というものを伝える機会があるかどうか。</p>	<p>(前回回答) 基本的にアートカードは鑑賞の導入という形で解説無しで楽しむものなので、作品一つ一つに対しての解説や、良さを伝えるというよりは、児童生徒の皆さんが自分の感性で見つけるというようなものが目的で、作品について詳しい情報というのは、児童生徒さん向けのものはない。ただ、指導する先生向けに、プリントとして基本的な作品の情報は添付している。</p> <p>また、コレクション展は年4回展示替えがあるので、その展示替えに合わせてアートカードも4回作り直しており、アートカードで触れた作品は、その期間は美術館に来れば直接本物を見ることができるようになっている。</p>
<p>③ 何かマニュアルとしてあれば先生方も進行しやすいかなということも、話を聞いて感じた。作品に対しての感想ということではなくて、どういう進め方をしたら効果的に子供たちの感性に伝わっていくのかなというようなところでの質問だったのかなというふうに思います。</p>	

<p>④ 実際に、前任の学校で美術館職員に来ていただき、アートカードの授業もしていただき、その後、先生方が美術館職員から教えていただいた方法で授業展開もした。参観日では保護者にもアートカードを使って、共に鑑賞し合う授業を提供していただいた。</p> <p>また、東北造形教育研究大会の事前研で、美術館で収蔵している岩手県と同じ作家の作品2点を借り、美術館の作品もいろんなものがあり、県内には私たちが知らない作品がたくさんあるのだなということ等を学ばせていただき、教育に関わってくれるありがたい美術館だなと思っている。</p>	
--	--

2 説明事項「令和3年度事業実施状況（会議資料3）」について

主な意見要望等	対応状況
<p>① 東山魁夷展、深堀隆介展、足立美術館展など、非常に楽しませていただいたと思っている。感染対策もきちんとしており、非常に企画も素晴らしかったなと思っている。</p> <p>ギャラリートークですが、学芸員の方々の説明を聞くのと聞かないのとでは全く違うなと思っており、実施日が金曜日に設定されているが、勤めている方々は土日であると非常に行きやすく思う。この曜日設定は全部決まっているものなのか。</p>	<p>(前回回答)特に金曜日で固定というわけではなく、過去に土日祝日にしたこともある。確かに金曜日というのは平日の昼間なので、特定の方しか来られないという課題も認識している。土日祝日の開催要望があることについては、今後検討したいと思う。</p> <p>(追加回答) これまでは、展覧会によっては土日祝日に開催すると、お客様が多くなり過ぎて支障が出てくることなどから、金曜日に行ってきた。今年度は御意見を踏まえ江口寿史展、福富太郎の眼展で日曜日の実施を試みたが、参加者数は期待したほど多くなかったことから、美術館をより楽しんでいただくためにPRの方法を含めて工夫していきたい。</p>
<p>② 機会があれば自分も参加したいと思っている。</p> <p>それから展示室内に看視員が配置されているが、説明はできない仕組みになっているのか。</p>	<p>(前回回答) 県立博物館は、看視も兼ねて解説員が展示室の中にいるが、美術館はそういうことはしていない。まず最前線でお客様の声を聞く立場にあるので、本当に簡単な質問など基本的なことはお答えできるように研修や情報提供はしているが、当然内容によっては難しいことがある。その時は学芸員に伝えるようお願いしている。</p>
<p>③ アウトリーチ事業の美術館出前授業ですが、276人の参加者があり、いろんな地域を地区ごとに順次実施しているようだが、どういう地区、どれぐらいの学校に出向いているのか。</p>	<p>(前回回答)今年度までは5か年計画で、美術館から遠い地域、遠隔地を中心に回ってきた。来年度からは県内全域を回ろうということにしている。ただ、地域を分けないと全部から申し込みを受けるのは難</p>

	<p>しいので、全部で6つある教育事務所のある地域毎に分けて順番に募集していこうと考えている。</p> <p>(追加回答)美術館に行ったことがないという児童生徒が多数いるのが現状。今年度の対象地域は7校9回行ったが、どの小中学校でも所蔵作品に興味を持っていただくことができた。</p>
<p>④ 例えばアートカードを使い、いろんな授業をしたとき、次の段階として、それにつなげて美術館で関連する展覧会があった際、その授業をしたところの方々をお招きし、実際に作品を見て体験する機会を作るなど、次のステップへ上手につなげる格好で出来ればいいのかと思う。</p> <p>以前は沿岸部からバスで直接美術館に連れてきていただいたこともある。震災復興の一翼を担っているという格好だと思う。美術は心のケアということで、コロナ禍が沈静化したときに美術館に心の安らぎや、勇気や元気をもらうために、それぞれ感染防止に努めながら、その中で楽しみを意欲的に探そうとしている方々もたくさんいると思う。</p> <p>その時に望まれることは図録であり、図録があればその時見たものを、家に帰ってから何回でも繰り返し見られる。すごくそれを感じたのは日展の会場だった。図録の中に別冊で作者の全部の作品コメント、制作意図が全部書かれており、受賞作の審査講評も1作ずつ全部記入されていた。作者の制作意図を見ながら会場内を歩いている方々もたくさんいて、これが新しい傾向なのかと思った。図録が自分たちの宝物として、何回も繰り返し読める大事なものとして生活の中に定着していることに感動した。</p> <p>なにか、そのようなものがあれば本当に一般の方々にも楽しんでいただけたらと思うので、よろしくお願ひしたい。</p>	<p>(前回回答・美術館) まず、バスのことですが、遠隔地からバスで美術館に来ていただくことは震災前にもやっていた。その事業を終了したのは、予算的なこともあるが、旅行会社的な事務の部分がすごく多かったので大変だったことがある。また、昼食にイオンに行ったりすることのほうが楽しみだったというようなこともあり、総合的に勘案してその事業は一旦終了させていただいた。</p> <p>また、震災以降は県の教育委員会でもいろいろな予算、基金などがあって事業展開をしたと思う。</p> <p>(前回回答・生涯学習文化財課) いわての学び希望基金を活用しながら、沿岸の各学校から希望があればそういったところについても活用できる事業があり、各学校のそれぞれの実情に応じて活用する形になっている。</p> <p>(前回回答・美術館) このような状況もあり、今は美術館で特にバスを仕立てることは行っていない。コロナ禍の状況も見極めながら、これまでのような活動に戻していくかは慎重にやっていきたい。また、図録については、各展覧会で図録を作成し販売している。一般書籍のスタイルをとることもあれば、館内だけ、展覧会の場所だけでというものもある。菊池委員がおっしゃったのは日展の会場のことだが、当館でいうとアートフェスタが一番近いと思う。アートフェスタはいろいろと状況が変わってきており、写真撮影が可能になったことや、コメントを出す方もいれば出さない方もいたりなど様々である。図録という紙媒体だけでなく、今後デジタル技術も使ったいろいろなことも出てくると思われる。そういったことは美術館も課題意識をもち、どういうことができるのか考えていきたいと思っている。</p>

<p>⑤ いわたの学び希望基金がどのように活用されているのか聞いて、あまり目に触れなくなってしまうなと思った。主催側だと手間が大変だろうなと想像はついたが、学校主導で何かオファーが来るとすごくいい流れになりそうだなと思う。やはり移動手段がどうしてもお金がかかり、すごく苦勞されているところだと思うので、そういうところが少し分かりやすく、例示的なものがあれば皆さん使いやすくなるのかなと感じた。</p>	<p>(前回回答・生涯学習文化財課) いわたの学び希望基金の関係で補足させていただく。 組織再編があつて、文化芸術業務が文化スポーツ部に移管したのだが、「年間こういった企画展をやっていますよ」と、博物館も含め沿岸被災地の学校に文化スポーツ部のほうから基金を活用して鑑賞できることを案内している。バスの契約なども文化スポーツ部で行うので、学校が手を挙げさえすれば無料で鑑賞できることにはなっており、あとは学校のほうで年間行事の調整を行うなど、学校側に判断していただく流れになっている。</p>
<p>⑥ 岩手県は広いので、美術館に美術の授業で来て1時間鑑賞するとなっても、移動にプラス1～2時間かかる。そうすると1日の学校カリキュラムを崩さなければならなくなる。学校には1人1台端末が配置されているので、映像を通しての学び配信を行う予定があれば、そちらのほうがかきとっと身近な感じになるのではないか。実際に立体的に見たくなれば、家族で来ていただくという方向のほうがかきとっとスムーズになるのではないか。</p>	<p>(前回回答) 今年、実際に美術館でも何回かリモート講演会を行い、やってみると意外といいものだなというか、全然遜色のない情報のやり取りができると感じた。美術館でもデジタルツールを使った鑑賞支援というものを、これからやっていかなければと考えている段階である。そういうことが出来ると、もっとスムーズに事柄が進み、実際に見ていただくための予習や心構えができ、作品に出合っていた後もいろいろ深めていただくなど、デジタルで無限に広がる部分があると思うので、その可能性は美術館も考えていきたいと思う。 <b>(追加回答) タブレット端末を年度内に購入し、研究するところ。</b></p>
<p>⑦ 個人的にも彫刻だとか美術館では立った状態でしか見られない。しゃがんで見るとかは周りの方が気になるので。デジタルで映像を動かせると、本当に360度見ることが出来る。子供たちもタブレットを動かしてみるのが大好きだと思う。</p>	<p>(前回回答) 美術館が開館したときに所蔵作品のデータベースを整備し、ホームページで開館当初から公開している。小さい画像から大きな画像まで提供できるようになっており、彫刻作品のいくつかは四方八方から映像を撮って、ぎこちないものだがグルっと見られるものもある。今は技術が進んでいるので予算面などの課題はあるが、そういうニーズがあることは認識している。</p>
<p>⑧ 昨年のアートフェスタの時に、出展作家全員ではないが受賞された方々のギャラリートークをコンパクトに編集して発信していたと思う。私はギャラリートークに行けなかったもので、それをネットで見てすごく参考になりいい取り組みだと思った。今年もぜひ継続していただきたい。いろいろなSNSがあり、短い動画でちょっとずつ配信されていく</p>	<p><b>(回答) 2020年度のアートフェスタ展の際、例年行っている美術選奨受賞作家によるアーティストトークを、コロナのため展示室で実施できず、試行的に動画を作成し、youtubeで配信したもの。館のスタッフが試行錯誤しながら制作に取り組んだ。このようなトークや解説のコンテンツは、短時間だからこそその配慮や作りこみが必要で、編集、制作は思った</b></p>

<p>と、若い人たちはそういうところから入ってくるので、ぜひ続けて行ってほしいと思う。</p> <p>新しいアイデアをいただいて、ちょっとずつでも新しい形が何か見えてきているかなと思う。苦労も多いとは思いますが、ぜひよろしくお願ひしたい。</p>	<p>ほど簡単ではなかった。しかしながら、今後もこうしたコンテンツが求められることは理解しており、他館の実践例を調査している。</p>
---	---

### 3 説明事項「観覧者数の推移（会議資料4）」について

主な意見要望等	対応状況
<p>① 令和元年度は異常に観覧者が多いが、どういうことがあったのか。</p>	<p>(前回回答) 12月から2月にかけて、テレビ局と共催でジブリの大博覧会という展覧会を開催し、予想を大幅に超えて公式には32万人余りの観覧者数があった。チケットを必要としない小さな子供を入れると35万人を超え、この年は突出している。</p>
<p>② (ジブリの大博覧会) 若い方々が美術館に足を運ぶ機会として、すごくいい企画になったのではないかと思う。美術館に足を向かせるきっかけ作りになる、こういう素晴らしい展覧会があればいいと思う。</p>	<p>(前回回答) コロナの影響を免れて幸運だったと思う。</p> <p>(追加回答) 学芸的に開催する意義のあるものと、広く美術に親しんでいただける内容のものをバランス良く開催することを心掛けている。</p>
<p>③ やはりコロナで中止になった展覧会は、準備を何年も前からされていたと思うので本当に無念だったと察している。</p> <p>ムーミン展を見たかったという方がいらっしゃったと聞いている。残念だったんだろうなと思う。</p>	<p>(前回回答) ジブリ展から一転して難しいムードになってしまった。今でもムーミン展を開催してほしいという声は、お客様アンケートに必ず上がっている。</p>
<p>④ お願いなのだが、昨年度の協議会が終わった後に開催された企画展の人数を、どこかでお示しいただきたいと思う。次回以降で構わないが、協議会以降の結果がどうなったのか分からないので。</p>	<p>(前回回答) 次の協議会で示したいと思う。</p> <p>(追加回答) 資料4-2に掲載しました。</p>

### 4 説明事項「令和4年度事業実施計画について（会議資料5）」について

主な意見要望等	対応状況
<p>① 私は今回で任期満了となるが、以前に常設展をコレクション展に名称変更してはどうかとの意見が出され、検討中との話を聞きながら、実際に在任中に名称が変更になったことは、美術館の印象が近づきやすいというか、興味を感じるような雰囲気になり、非常に個人的に感慨深く、すごくうれしく思っている。</p>	

<p>② コンサート事業で、以前ナイトミュージアムを開催していただき、すごく楽しませていただいた。コロナ禍でなかなか難しいと思うが、コロナ禍が収まればまた開催していただけるのか。</p> <p>建物を生かすということで、すごく素晴らしいと思っていたのでぜひお願いしたい。</p> <p>また、企画展を考えるときに、どういう形で決まってくるのかお教えいただきたい。</p>	<p>(前回回答) ナイトミュージアムについては、コロナ禍が収まれば、また皆様に楽しんでいただきたいと考えている。</p> <p>(追加回答) コロナ禍のため今年度もナイトミュージアムの開催は休止となっている。</p>
<p>③ 企画展によって予算も様々だと思うが。</p>	<p>(前回回答) 経費がかさむ大規模な展覧会もあれば、コンパクトにできるものもある。決してお金をかければ良いというものでもないので、お客様のニーズを常にアンケート等で把握している。また、誰かの生誕100年記念など、企画が寄せられる様々なタイミングもあるので、それらを総合的に判断して決めている状況である。</p>
<p>④ 基本理念で「地域性と国際性を併せ持つ美術館」とあるが、国内の方の作品は結構拝見するけれども、海外の方の作品も予算がすごくかかると思うが、若い方々の目に触れる機会もあればいいかと</p>	<p>(前回回答) 美術館のコレクションが岩手ゆかりの作家の作品なので、企画展ではそれ以外の様々なジャンルのものをお見せしたいというところが意識にある。当館には日本画のコレクションはないので、と</p>

<p>感じるので、海外物もまた企画していただければと思う。</p>	<p>きどき足立美術館展のような日本画を見せる展覧会を開催したいと思っている。また、海外のものも可能な範囲で開催していきたいと思っている。海外作品についてはコロナ禍の影響で急激に企画数が減っている。もう少し状況が好転すれば海外物の企画を積極的に取り入れたいと思っているが、予算のことなどもあり、状況が難しいところではある。</p>
<p>⑤ 海外物というのは、日本にある海外の絵画を借りて展示するようなことも可能性としてはあるのか。</p>	<p>(前回回答)テーマにもよるが、そういうことも可能だとは思う。</p>
<p>⑥ 来年の企画展のラインナップで、岩手県ゆかりのものが3本あるがとても素晴らしいと思う。有名な作品ももちろん見たいと思うが、県を代表する美術館なので、やはり地元、岩手県の美術というのが大きいテーマだと思う。今回の20周年という冠がついた企画展においても岩手県ゆかりの作家を取り上げるというのがすごくいいなと思う。来年も岩手や東北をテーマにした展覧会を年間半分の3本も開催するというので、すごく楽しみにしている。これからも岩手の美術を盛り上げる中核館としての役割を、ぜひ担っていただきたいと思う。期待している。</p>	<p>(回答)「地域性」は、地方の美術館として欠かせない視点である。R3(2021)年度は、まさに「地域性と国際性を併せ持つ」県ゆかりの作家、菅木志雄氏の回顧展を開催し、岩手県立美術館のスタンスを明確にできた。来年度も岩手、東北をテーマとした企画展を予定しているほか、他の巡回展のなかにも、岩手との関わりを示すコーナーを追加するなど、常に地域性を意識している。</p>

## 5 協議事項「岩手県立美術館の運営」について

主な意見要望等	対応状況
<p>① 昨年お願いした教育普及活動に関して、今回お聞きし、大変取り組んでいただいていることを実感した。</p> <p>先ほどから話題に出ている予算的な事柄について、こういった場でお聞きしたりできるものか。私は県立学校に勤務しているが、今年はかなり予算が削られている。私も本当に海外の作品等を拝見したいと思っているが、美術館の運営は予算的にどうなのか。</p>	<p>(前回回答)運営のところでは、来年度は江口寿史さんの展覧会を岩手めんこいテレビ様と一緒に組んで開催するなど民間とも連携し、うまく工夫しながら取り組んでいる。また、民間企業からの協賛を取りつけるなどの工夫も徐々に行っている。</p> <p>(追加回答)今年度は、江口展のほかに福富太郎の眼展でも岩手日報社様と一緒に開催し、東北電力様から協賛していただいた。</p> <p>しかし、昨今の社会情勢の影響により美術館の運営もより厳しい状況となっている。</p>

<p>② コレクション展の話もあったので、どの程度コレクションに使える予算があるのか。</p> <p>作品購入の充実度を高めていくことが可能な状況にあるのか。</p>	<p>(前回回答)購入に関しては、県に美術品を購入するための美術品取得基金が設置されており、それを用いて作品を収集しコレクションの拡充に充てている。ただし、基金と言っても現在は取り崩しており、いずれ底をつく。他の美術館から話を聞くと購入予算が全くない館も少なくない。そういうところに比べると当館はいい状況であると思うし、震災の年やそれ以降も、少しずつでも収集は進めている。いい作品が出てくるのにもタイミングがあるので、今はそれを有効に活用させていただいている状況である。</p>
<p>③ 東日本大震災の後、美術館の企画展予算がゼロになりどうするのかと思った時でも、止まることなしにいろいろ工夫し、地元の作家の方に声をかけて歩いたり、企画展を開催したりした努力の結果が、来年度5本目の企画展である岩手の現代美術展につながったのだろうと思うと、非常に感慨深い。非常に楽しみにしているが、そういう予算のことだけではなく、地元で活躍されていた作家の方々、唐武さんもそうだと思うが、非常に目立たないところに光をあてた展覧会など、予算が少ないながらも素晴らしい展覧会を企画して行ってほしいなと期待している。</p>	
<p>④ 購入に関しては基金があると聞いたが、修復関係は年度毎の修復計画で予算要求していると思う。美術館のメインコレクションである萬鐵五郎の作品がそろそろ傷みが激しくなってくる時期かと思うが、後世に伝えていくために、今後ともぜひ県のほうにも修復の予算は削らないで要求どおりつけていただきたいとお伝えください。</p>	<p>(前回回答)修復については、予算をつけていただいている。当館のコレクションは紙作品が結構多いので、適切に保存し、良い状態を長く続ける処置を中心に行っている。修復というと破れや絵の具の剥がれといったものの修復というイメージがあると思うが、基本的には状態をより良くしていく作業のほうが多いと思う。</p> <p>ただ、新しい収集作品のなかには状態が悪いものもあり、そういったものを修復して展示できる状態に持っていくことも必要なので、そのような状況にも対応できるような予算組みをしている。</p>
<p>⑤ 修復をする方は、岩手県内の方なのか、あるいは県外の方なのか。</p>	<p>(前回回答)基本的には関東方面に送って修復していただくことが多い。</p>

<p>⑥ 観光業というところでは、おかげさまで安比高原のほうでリブランディングということで、世界で100か国以上、5千以上のホテルを持っているインターコンチネンタルホテルズグループのブランドを得て、国際リゾートを目指す形で、ANAクラウンプラザリゾート安比高原とANAホリデイインリゾート安比高原の2つのホテルがオープンし、来年にはIHGグループで最上位にランクするANAインターコンチネンタル安比高原リゾートがオープンする。</p> <p>インターコンチネンタルがターゲットとしているお客様は旅慣れた富裕層ということで、そういった方々は旅先での文化、芸術に触れることをとても望んでいるお客様が多いとのことだった。そうなったとき、一番にお勧めするのはやっぱり美術館だと思うので、5年後、10年後、どんどん海外のお客様がいらっしゃるようになれば、美術館を訪れる方が増えるのではないかと思っている。</p> <p>また、ハロウインターナショナルスクールが来年開校するので、父兄などが岩手を訪れた際に、美術館をちょっと見てみたいと思えるような情報を発信する。旅行会社のプランに美術館も一緒に入り、岩手の芸術に触れるといった提案もできるのではないかと感じているので、ぜひ情報の発信をお願いしたい。確実に変わる部分かなと感じている。</p>	<p>(回答) 今後、海外のお客様等の来県が増えてくると想定されることから、御意見のあった施設を含めて情報発信に努めていきたい。</p>
<p>⑦ よく家族で美術館に来るが、小学生だと美術館から配布されているものは読みづらいと感じる。子供目線のリーフレットも作っていただくと、一緒に回りながら親がこの作品はと説明して、子供自身がそれを読みながら進んでいけると思う。大人が見たい部分と子供が見たい部分は違って、館内でも離れ離れになったりする。やはり地図が載っていて、ここにはこういう人たちの作品があって、岩手の人たちなんだよ、みたいなものがあると、もっと興味を持って子供たち自身だけで見て回れるのかなと思う。</p>	<p>(回答) すべての展覧会で子供向け冊子を作るという対応をすることは、マンパワー、予算など、いろいろな点で難しい。しかしながら、グループ単位となるが、小学生以上を対象とした鑑賞サポートを実施しているほか、展覧会の内容によっては、お子様と一緒に楽しめる鑑賞クイズや鑑賞ツアー、ワークショップを開催するなどの工夫をしている。</p>
<p>⑧ 今の話を聞いて、子供用の踏み台とかがあっても楽しいと思う。大人目線と同じように子供も絵を正面から見られると思う。</p>	<p>(回答) 絵本原画やデザイン系の展覧会では、お子さん用の簡易な踏み台を用意し、ご要望によりそれをお貸ししてご覧いただくような対応をした実績があることから、引き続き鑑賞の方法について、工夫していきたい。</p>

⑨ 作品の脇に小さくプレートを貼って内容が書いてあるのですが、子供はそれを読めない。漢字だったり難しかったりするので、作品の雰囲気壊さないために、子供が持てるもの（リーフレット）があればきっといいと思う。

(回答) 5の⑦の回答と同様に当面はリーフレット以外の方法で工夫していきたい。